

三獸演談

中

遠 13
2029
1-2



ぶらぐれどもきてむく大日世集の八日の山海日
 中もらよのとおくあつてひのりもなるに
 人の中半の解らひのりくひひたてつてかた
 指さゆとひくともせられはひるは自然ちまひ
 是非もかかへぬ小流海大内神もこの時まじり
 望まははるち人をも驚かすなるとも牛尾とあるの
 ちうれとあまのはきなれたひひがんちんもあま
 をむつとれはひもともいれむも子六もあまはと
 といはれぬも身小流あるは海小波のりも大切ある
 中鼻あふりてふる所の鼻は海ひあてもあつてへり

上代は虫のしりてせりき一徹ちたさるる六なる所坊
 なる所坊は葉なる人坊のたぐひある鼻のり人なる
 一しり及びひーがともいれむもあまのりく鼻小能
 あるのりもあつて鳴呼鼻なるるか

大衆武もむつたの事

老牛同くなく上代舞王の廟共穂の形も大衆此
 象もあつて田を耕し一穂り今祝言山の禹王の祝も
 象あつてもりて耕作もと帝王世紀等の事もあつて
 ころり是等の事も海小感一その事なる海
 戒へ王者道はひひ天下なる年なる所の白象定事



又わりの山漁もはやはのちありし山物終はる象を
 招と細目小角をましくおろちなるうか老半生杖木
 がらん祖國天下小大切あるうりをやま海一丸く日な
 の半馬の及ぶあふ河に流る南蛮の國王日な中
 國の人乃馬はむるまらるごとく宗梅をましくあふ象
 をあしく引列をまのふけ附象を杖束り日なのをれり
 今の終数干をひくふ飾てけ来せしむ其鳴声
 りんくと清くな身を羅我象といふ我の象も
 を祀と死羅ののあれ象小命ましく遊教する
 法阿り是皆たまふあましくまのあ人のあふ

功をたすの流なりを不修く唐の玄宗皇帝ハ
 象を愛して音樂ヲ令せし象を愛してあ
 りる事と好むは天子玄宗年中安祿山叛逆を
 くらして玄宗皇帝を逐つたりて後祿山
 かの音象ともあつた拍子を抄く者しめん
 れば象とも玄宗の母をひ祿山が義を怒て
 目を怒し祿山を同不白眼し祿山を怒て象
 とも悉く坑は懼教といひ是象は人の母を
 知り人の不義を知らんて人母を執するの流あり
 去不唐朝の韓人白岳嵩も努目祿山終不拜

誰知守義似何人と作るも象が仁義のつとを
 称すやいふ阿もや故不南楚新開小く明皇所
 教舞象天宝之乱祿山大宴胡酋出象給之
 曰此自海南至以吾有天人命雖異類以拜舞左
 右教之象皆努目不動終不肯拜祿山怒盡
 殺之といひ是象の志のつと英雄の義の士と
 いとも及ぶはうは是象の西より楚を去る
 海楚王孫をあらうと數十の象の尾火非を行
 其の隙へちられば象怒く其の隙不窺く入
 其の隙不敗也せり漢の存も王莽と光武

と昆陽小破く踐い河りしんやう小象を驅て踐つへし
し其事ことあり是等のこのは伝後漢書とんご小記せきて
其その説せつ合あはれなりなわ之の大究たいきう身毒しんたふの國くに出いずる小ち象しやう
之の合あはれるの法はう河がりの小ち象しやうの皮かわ甲胃かうゐ
小割せつ裂れつしてはくささるの南蛮なんばん鉄てつの尖いばといふも也なり
海うみの波なみ或あるは千嶽せんたつといふも也なり
てらのたりはくちにあるかし老牛らうにう先まにはてはりて
之の意いをしるべきなきの人ひとのたりしるをしる也なり
曰いふも五ご雜ざつ俎そわる漢人かんじん畜象くしやう如ごと牛馬にうま然しか騎り以も出いす

入いるこ裝載そうざい糧物りやうぶつ而性しやう尤と馴な又また有ありし架か於お背せ上じやう兩人にん對たい
坐ざ宴飲えんきん者もの過あ坊額ぼうがく必かな膝行ひざゆき而過を山やま則すなは跪ひざまづ前まへ足あし下した山やま
則すなは跪ひざまづ後のち足あし穩むか不可か言を有あ賊てつ所ところ劫かぢ者もの窘急きやうきつ語象ごしやう以も故ゆゑ
象しやう即すなは捲ま大樹たいじゆ於お鼻端びびたん迎戰むかひたたかひ而出い賊てつ皆みな時とき奔潰ほんくわい也なり
是等のこのののふりといふもはなにあらはすも也なり
亦また先祖せんぞの精神しんしんといふもはなにあらはすも也なり
たゞただひひるも年としといふもはなにあらはすも也なり
おのしりくしもも守まもりてある人ひと患うれの患うれの患うれの患うれ
ゆゝののたり一ひと老牛らうにう先まにはてはりて
の牛にうさる乃なるをしらひいはなす今いまある人ひと患うれの功こうといふ

船より海のやど日本も六十余列の船りてわ
風を突かざる小舟の氣質形容も又各列の船り
も阿多をくくくくくくくくくくくくくくく

老牛式功りかしの事

海老老牛船と據立眼を以て浪事もありたる船
國形も大功ありし初漢に今奉て舞べくくく
ち年のをふ所しつち年の功ありし船をふ所く
乱れ功ありし船も通して大功となすものも
のなる所ふ所ははるるの先祖のありし所の海を彼
武王莽が合戦の海もふ所海せしめしものども

それ大海の二流九牛が一毛といふ所のありし船も
地も海もその職もやせんち年の代もあつた
船一船を脚く大船を成然せしめく百民を
それのやうに守りて負ひしものも門ぢり大力の
及んば船を船ひく險阻をを甲遠方ものあり
も切是をさるるのありもさるる船なり日本はひら
しつちの車牛といふ所は船の船の船の船の船
そりゆく大坂の船もたつた地といふも車牛と
いふ所はしつちの船も船の船の船の船の船
ハ親友の下船も船の船の船の船の船の船

穀數千倍を賣て遠方より遠方おどり坂を登り
 山より海へ出ると天のあつた極星のまじはせを
 流るる海もかき島を切替を採らざらば海を
 やまきんまされいふ人の徳刺とび痛むむ
 儂くすのきも海軍おさうとくらむぞ車せわれ
 と人もたのまぬ海へびをさぬぞ一人七人車
 の海を押し海へ牛方も能きと鞍よひさうけ
 策をいへ海へを擲ちおがうとさうとさうりあ
 いて九折千島樹あるさる島つとさうとさう首を
 秘らまるとして海へていあむば海軍おさうりのさる

一、いふらうりさるるさう一おあかやいさうとあが職か
 の黒面法とさうい首の骨はらうは肉はたさるさ
 までともはのほらういさのけさるは今日もあま
 けとあて死あての後おまんとさるは是もあま
 深へさういさるるさるあまあつてさるは是もあま
 の目いさるの中より難れをいさ出さるはさるは
 あま海りそれなり海軍おさうとさるは是もあま
 お海の海へ出てられて親方自然に牛初産おまの
 親方おさう一草刻とさるは是もあまの親方の
 肉へさるさうとさるあまおまのさるははあまの

入とせしむるなるものひびきひらりして食せんと
 意比よらるるいひかき河ぬりか舟のたゞのものの
 小いひいれ又本船屋とにせられ海捕の二十も換
 えてさいりん買取傳よりなひ約せ或は言各赤坂とに巨
 くれ船とて海より夜をなんが非昔も好書に立
 ずそれのいなるにつばし海捕病病射月眩のよる海も
 いらるものいひのちいりてい海に立舟小門おとま
 後中の海ついでいおも海に思かしく思あくの持持方
 日あま前家の門にうらうらあやみれぬ船をうたてもや
 とあやうもあはばせうらうらあやみれぬ船をうたてもや

かに乱れをふあや舞舞の運送おのほられ又ひらりして
 さんべ分別の大船あれあま思ひをたらくか一あいの角お
 火あま炬とらうり財庫ふまのまのあやあや計とて一て款乃
 隊中へたけ糧をせして縦横に得の働をあや一あて款を
 海と遊あや船中と常と海戦ら鳥銃のひいあか中へのあ
 甲あまこむるあや河と縁とも火炬は海中小船と堅あま難
 隊の計は海と痛通にせれ舟のさうのあれは好か
 入あまへ遣ておまても款隊捕せせらああうたれ海とまて
 かりも年暮るあま大切小舟と捨る記軍中も捨
 けり記隊ともさう知事あま定てあま海にそ守給え

一六頁

三蔵の回書中々くもはつていじ藤の田草が火牛の海で
 大利をひくる事一と云ふひして藤一史馬遷が史記田草が
 傳と云ふておとがえ祖の物と感心あれおとが日なめて相別
 小田原の城へス東青西菴がりの飛り一と云ふ早雲
 數十の年の角火炬とらりの月影根目念の方より城の中へ
 おいらんてす夜の中おととくとおれたお米代は城は清
 るく園別と知れせりも年暮るお米が力ありておと
 どむ海志登壇は病おの書お火牛の福と兼て兵法の
 とおめて共業とあり一又後の世の人をして又後の世
 の人は言はせおとあるとておとておとておとておとては方

とおとておとておとておとておとておとておとておとて
 ちりの人お根おとておとておとておとておとておとて
 少乃おとておとておとておとておとておとておとておとて
 自由自中の物おとておとておとておとておとておとて
 強力を油の中おとておとておとておとておとておとて
 伝ひおとてと敗軍をおとておとておとておとておとて
 の海をゆり柳子の形おとておとておとておとておとて
 を擡おとておとておとておとておとておとておとておとて
 おとておとておとておとておとておとておとておとて
 とき中後の皮は甲冑おとて強をて自擡りておとておとて

和朱の皮も亦半皮小努りの物でかゝれば同防也の但馬
 の由ら牛の皮は初て強く堅りの中へ完蒙出所の珠も
 及も御受深帷子かと八守とて働ゆ〜とて和朱ら皮を龜甲
 形小切てその水小曝一打扱て布に絶行まら〜とら付て
 逆びむ和の字寢突〜加之孫武子を輜輶車とら小攻
 のは亦一用ゆる車りら四方をせ牛の皮はわく強は亦亦
 後炮といひて大切さか〜裁け牛の皮を楢小作りて矢を
 とつけ其外牛肉の功用わ〜とら切糟漬の固膠の液
 角の用去法人不肥ある〜可病あるり半皮も毒〜存
 の母り阿蘭陀人知とら和朱が肉乳焼小ゆ〜され〜二〜を



大功をか一して國を其のわざも人の方物の靈小天
地の体たるも海を其の穴れ孔子のこれ聖人まは狼狽
あつて喪家のなのとくといふ顔淵の亞聖あるも經命
めであまを執るものかはに次をわら走然の形を
まされが天をも恨めうは人をもとまむしうに去るが
治れぬ通下て其功莫たあるものま象後亦まびび
りくもあつて治るものなる今にめんといはれしが象
もいれどまうくくまをさうが

象と鳥をさうめく對面の事

象はつとせは治るの格はまは治るまの斗舟をま

まのゆを下目めん治るまをさふ大鵬とら鳥のり戸
二万二千里一息十万里をひらつたまらまらぶりのか
一といふと象はつとあるものあり天地の間はま
象は象記をの功人をなはるのまもまら一とれ不傳て象車
とらまのまをりて象をなはるまの詳も武徳志の書に
つり象が春社も象の肉は天下のうまのの親言と
まもく治るまを賞せりて象のまのまもひ掛おの軸と
なり其功周斗なり其まの象は信義のまも象見傷
則群黨相扶將去南向跪拜鳴三匝以木覆之と
いふの象字記は詳もまらり又まもく象を切

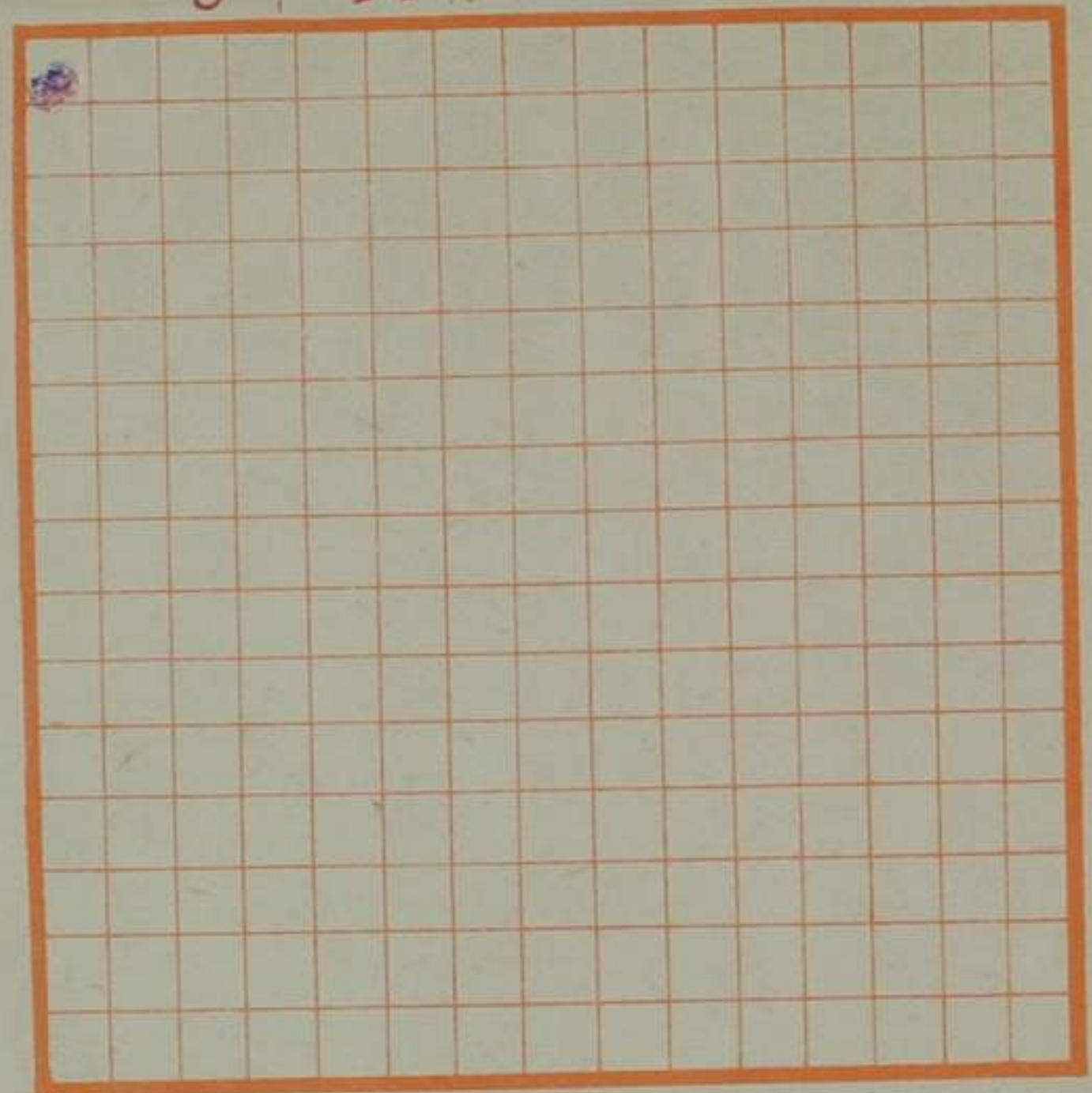
子中目ありてその形念像と人象の皮を厚く焼て合瘡の
 合さるものおそれる急念急功ありその功に後華が物
 物志おも象之為獸形体特詭身倍數牛目不踰
 稀鼻為口後望頭如尾馴良柔教听言則跪素
 牙如玉潔載藉所義服車致遠行如丘徒と廢て
 形念當年僅よ八歳ありて形体もちいさげ抱てそれ
 れの働もたしはらりとも大おむり多の十丈や二十丈ハ
 中への救めはらひの下の罪人立す鼻の口空穢
 て投出—西國橋おくとんかやむりもする六月ありて
 りりり形念おはらむつとらるる者のみむり七疋ぶらも

相のふし木何へ鼻の口おとてまけん是牛めても
 形念は稚子孫の若ふまふびやも感あれ其とい夜言
 の地よまりの果の熟らへ天子の處管入久後の言と
 流り揚如清元の河は流り流は流りかよ海せきま優
 まぬわの内裏中島や中も形念の鼻よい形と打給て
 以後形お入るから山河お流りも傷よりいさふ形と
 塔しくの池を奔を牛竟形来が池の口海は洋流る
 ゆかふもや者八日女のせんかりとりも改めて處管
 入官信を授け將軍おのりかこお念く意地ある
 ゆかふなる傷かふるべと鼻をかかひしやうんが

知人よなりのはらん世に命とありつれば老牛を
 大勢おしつゝはきいお衆が仲間同大の波をお勤
 中これの老馬ともあくは今自半衆出列お申
 り知人よのこは申すこ衆かこれよりお好はらん
 ぞとて衆同衆おとまらん老馬ともはを拵て
 まつら今よりいふものもいふもの乃中一む
 ぞとてお申衆おとあてていふお好はらんぞとて
 中命おらんおとていふ海一とていふの衆おく
 の衆馬ともしも二回はお申お好はらんぞとていふ
 ばとも門の出入もこれ切におの衆おも多くとて又

大僧^{ひつ}海浦の波馬ともいふ衆おともお申てんは
 らまお衆お不自申お申用もさうりおつゝいふる
 お申代は衆いお申衆かこつ何きいも申道
 中おつゝいふお申お申海一とていふ大衆も
 衆とこれ一礼とて法とて遠方法お申衆いふん
 衆お申さうりお申の交^う出^ち廣^{くわん}南^{なん}の信人お申お申衆
 申いけなま申お申お申衆お申お申のこは
 申お申らう大衆お申お申お申衆お申お申は
 衆いお申お申お申お申のこはいふち衆も衆
 牛馬の申お申お申お申お申お申お申お申お申

3年11月



三葉漫抄一巻之口

内体長河きと中りきと老馬きりも二回ふれ
しておのく席あそびさしりり敷

三葉漫抄巻之伸紙



三葉漫抄一巻之口

内体長河きと中りきと老鳥さりと一因ふ礼
しておのく席あそびさしつりり歌

三葉漫抄巻之伸紙



二二

三

